国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

平成 26 年 9 月 22 日

各　位

国際石油開発帝石株式会社
広報・IR ユニット
（電話 03-5572-0233）

アゼルバイジャン共和国　カスピ海 ACG 鉱区
生産分与契約調印 20 周年記念式典の開催について（お知らせ）

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、子会社インペックス南西カスピ海石油株式会社を通じてアゼルバイジャン共和国 カスピ海海域 ACG 鉱区（以下、本鉱区）において原油の開発・生産作業を実施しておりますが、本年 9 月 20 日、同国首都バクー市において本鉱区の生産分与契約調印 20 周年を祝う記念式典が開催されましたので、お知らせいたします。

この式典には、同国のイルハム・アリエフ大統領を始め多数の要人が出席しました。当社からは由井誠二取締役副社長執行役員が出席しました。

ACG プロジェクト 海上生産施設

本鉱区については、アゼリ油田、チラグ油田およびグナシリ油田深海部を段階的に開発すべく、1994 年 9 月に英国の BP 社をオペレーターとする国際コンソーシアムとアゼルバイジャン国との間で生産分与契約が調印されました。1997 年にチラグ油田において早期生産が開始されたのち、2005 年にはアゼリ油田から、2008 年にはグナシリ油田深海部から、さらに本年 1 月にはチラグ油田西部から順次原油生産が開始されています。

本鉱区からは、これまでに 25 億バレルを超える原油が生産され、現在も日量約 66 万バレルの原油が生産されるなど、世界有数の巨大油田群として安定的に操業されています。生産された原

油の大部分は、当社が参加する BTC パイプラインを経由して地中海に面するトルコ共和国のジェイハンに輸送され、欧州を中心に輸出されています。

当社は、2003 年に本鉱区権益の 10%を取得した後、2010 年に追加的に権益を取得した結果、現在 10.9644%の参加権益を保有しています。当社は、巨大な油田群から長期にわたって安定的に原油が生産される本鉱区を、当社の成長を支える重要プロジェクトと位置づけており、今後も本鉱区の更なる発展に取り組みます。

当社は、INPEX 中長期ビジョンにおける当社成長目標の一つである上流事業の持続的拡大に向けて取り組んでおり、引き続き石油・天然ガス事業の拡充を図って参ります。

以上

＜ACG プロジェクトの概要＞

鉱区：	ACG 鉱区	
鉱区面積：	約 432.4 平方キロ	
水深：	100～400 メートル	
鉱区位置：	アゼルバイジャン バクーから東方約 100 キロ	
権益比率：	当社：	10.96%
	BP 社（オペレーター）：	35.78%
	SOCAR 社：	11.65%
	Chevron 社：	11.27%
	Statoil 社：	8.56%
	ExxonMobil 社：	8.00%
	TPAO 社：	6.75%
	伊藤忠商事株式会社：	4.30%
	ONGC 社：	2.72%